

ゆくはし 今昔物語

来年、市制 70 周年を迎える行橋市。山や海に囲まれ、京築地域の中核として人が行き交い、歴史と文化が育まれてきました。昔懐かしい行橋の風景や町なみの、「今」と「昔」をご覧ください。

～ Vol.2 行橋市役所～

行橋市は昭和 29 年（1954）10 月 10 日、当時の行橋町と蓑島、今元、仲津、泉、今川、稗田、延永、椿市の各村が合併して、県下 18 番目の市として誕生しました。仲秋の頃に市内を彩るコスモスは、市の誕生月に花を咲かせ、その 1 つの芯を中心に 8 つの花びらが咲き誇るさまはあたかも 1 町 8 村が合併した行橋市の繁栄を象徴することから、昭和 41 年に「市の花」に指定されたものです。ちなみに右の市章は「行」の字を崩した形で、円は市の円満、下を太くしたのは伸びゆく大樹を表し、やはり市の繁栄を祈願したものでした。



昭和 29 年（1954） 初代行橋市役所庁舎

昭和 29 年に行橋市が誕生した際、行橋市役所の庁舎として利用されたのは、現在の中央公民館の位置にあった京都郡公会堂でした。当時は「京都郡行橋町」であったことから、京都郡の中心であった行橋町には郡の施設が置かれていました。しかしながら郡公会堂は手狭で、旧行橋町や各村役場を支所や分室とするなど行政機能が分散されていたため、今から 67 年前の昭和 31 年（1956）7 月、現在地での新庁舎建設が始まりました。



昭和 32 年（1957） 2 代目行橋市役所庁舎が完成

現在の行橋市役所がある中央一丁目は、鎌倉・室町時代には今川の河口に近く、それ以前は海の底でした。新庁舎建設にあたり軟弱な地盤を強固にするため、基礎には長さ 10m 程のマツの杭が何十本も打ち込まれました。翌 32 年 3 月 20 日に完成した新庁舎は、鉄筋コンクリート造 3 階建てで、屋上には鉄骨造りの塔もありました。



昭和 57 年（1982） 現在の行橋市役所庁舎へ

昭和 53 年（1978）には市の人口が 6 万人を超え、行政事務が増大、細分化する流れに対処するため、昭和 55 年（1981）から現在の行橋市役所の建設に着工、2 年後の昭和 57 年 2 月に 7 階建ての庁舎が完成するに至ります。そう、皆さんお気づきの通り、現在の行橋市役所の低層の庁舎は、昭和 32 年完成の 2 代目行橋市役所を改修したもので、「西棟」として市民の皆さんに活用されている現役の庁舎になります。